

演題名	お薬手帳の普及と今後の課題		パソコンスライド	
院所・事業所名	若水ハロー薬局	部署		
発表者	子	職種	薬剤師	
共同研究者	若水ハロー薬局職員一同			

<目的>

若水ハロー薬局では、お薬手帳の普及が思うように進んでいない状況だった。今年徳島県連より薬剤師の支援を受け、お薬手帳の普及が進んでいる徳島の状況を聞き、7月からお薬手帳の普及に全職員で取り組んだ。取り組みから4ヶ月経過し、継続してお薬手帳を活用していただくため患者様のお薬手帳に対する認識、活用の現状を把握し今後の課題点をあきらかにする。

<若水ハロー薬局お薬手帳算定率>

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
7.54%	7.34%	7.28%	7.42%	7.94%	18.32%	27.10%	30.07%	27.80%	27.57%

<お薬手帳アンケート結果>11月13日～24日の10日間 (対象) 若水ハローの患者様
アンケート総数：207人 お薬手帳を持っている→77% 持っていない→23%

(手帳を持っている)	手帳の使い方について	説明あり 66%	なし 29%	覚えてない 5%
	持っている冊数	1冊 90%	2冊 10%	3冊以上 0%
	薬局で手帳を出すか?	毎回出す 70%	たまに 16%	殆ど出さない 14%
	出さない理由	忘れる 74%	薬の変更なく 14%	その他 12%
			必要ない	
	医師にみせたことは?	ある 17%	ない 83%	(1 医療機関しか受診してない人も入ってます)
(手帳を持ってない)	持っていてよかったか?	よかった 40%	特に思わない 60%	
	手帳の説明について?	説明あった 42%	なかった 56%	覚えてない 2%
	持たない理由	1 医療機関のみの受診で必要ないと思う→12 持ってくるのが面倒→7 同じ薬でわかっている→6 その他→4		

<問題点と考察>

- ①お薬手帳のおすすめの声かけが不十分
- ②お薬手帳の活用の仕方がわかっていない人がいる
- ③なかなか、継続してお薬手帳を持ってきてくれない
- ④多くの方がお薬手帳のメリットを感じていない

今回のとりくみで、「手帳のことを聞いたことがない」と言われた方が予想以上に多く反省すべき点だったので、これからも意識して声かけしていくことの必要性を感じた。また、若水ハローの患者様は高齢の方が多く特にお薬手帳の活用の仕方、手帳の目的、意義の説明を繰り返していくことも必要だ。手帳を継続して持ってきてくれない問題については、手帳を新しく作り変え、カバー付のものにし、診察券なども入れられるようにして携帯しやすい物にして、続けて持ってくるよう声かけをする。

<今後の課題>

今回明らかになったお薬手帳最大の問題点は、メリットを多くの方が感じていないという点だ。新しい診療報酬の改定で将来的にはお薬手帳は義務化される方向だが、義務化されても活用されなければ無意味だと思う。手帳のメリットを実感し、継続して持ってきていただくため、検査値が記入できるシールやグラフを用いるなど、患者様の目をひく工夫、手帳を介して医師と薬剤師が患者様の情報を交換するなど「利用価値のあるお薬手帳」にするための論議、実践が必要と考える。

<まとめ>

今回のお薬手帳の普及を通して、職員が意思統一し、全職員で取り組むことでそれまでなかなかすすまなかったお薬手帳の普及にそれなりの成果があったことは貴重な体験だった。多忙な日常業務のなか、いろんな問題点が疎かになりがちだが、意識をちょっと変えるだけで状況を変えることができることをこの体験を通して学んだ。これからも職員みんなで様々な問題を解決していきたい。